

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和4年度】

2023年 4月 17日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町3-2-6 麹町本多ビル3B

評価機関名 一般社団法人 日本福祉サービス評価機構

認証評価機関番号

機構 02 - 033

電話番号 03-3262-2260

代表者氏名 太田吉泰

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	宮内 洋	福祉	H1401044
	②	笹野武則	経営	H0901035
	③	太田吉泰	経営	H0301059
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	多機能型事業所			
	<input type="checkbox"/> 生活介護			
	<input type="checkbox"/> 自立訓練(機能訓練)			
	<input type="checkbox"/> 自立訓練(生活訓練)			
	<input type="checkbox"/> 宿泊型自立訓練			
	<input checked="" type="checkbox"/> 就労移行支援			
	<input type="checkbox"/> 就労継続支援(A型)			
<input checked="" type="checkbox"/> 就労継続支援(B型)				
評価対象事業所名称	青梅福祉作業所			指定番号 1312800236
事業所連絡先	〒	198-0043		
	所在地	東京都青梅市千ヶ瀬町3丁目393番地の4		
	TEL	0428-23-3612		
事業所代表者氏名	福田和弘			
契約日	2022年 6月 18日			
利用者調査票配付日(実施日)	2022年 10月 14日			
利用者調査結果報告日	2022年 11月 25日			
自己評価の調査票配付日	2022年 8月 9日			
自己評価結果報告日	2022年 11月 25日			
訪問調査日	2022年 11月 29日			
評価合議日	2023年 1月 27日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は聞き取り方式を中心に、一部アンケート方式で実施しました。訪問調査は事業所を訪問して行いました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2023年 3月 30日

事業者代表者氏名 福田 和弘

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 利用者の人権尊重と利用者本位の支援 2) 利用者や家庭の安心・利用者の安全・安定した運営 3) 希望に満ちた生活環境の提供 4) 愛と信頼があふれる支援 5) 専門性を生かしたサービスの提供
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 具体的に掲げられた職員倫理・行動規範を日々の業務において実践する。 ② 利用者の言動を常に意識して耳を傾け、利用者からの呼びかけや支援の求めには適切でない、かつ迅速な対応をする。 ③ 利用者の個性を理解し、自らが選択・決定したことを尊重するとともに対等の立場を守り真剣に対応する。 ④ チームワークと信頼関係を基礎に、倫理や規範の乱れが生じないようお互いが切磋琢磨し、問題が生じたら早期の検証・修正・周知により、問題を先送りせず迅速に対応する。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 障害のある人が地域で暮らすことの大切さを知り、そこにおける当作業所の役割と責任の理解と探求心、実践力。 ② 利用者個々のライフストーリーに思いを寄せて、しっかりと情緒的に受け止められる感性を磨き、利用者の「その人らしい生活」の実現に向けた支援をする姿勢。 ③ それぞれの自立をイメージし、ハビリテーションの考え方にに基づき、励まし育む姿勢。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	個別の支援計画等に基づいて、利用者の望む自立した生活を送れるよう支援を行っている
タイトル①	個別支援計画は全職員で検討し、ポイントを確認して計画に基づいて支援を行っています	
内容①	個別支援計画の検討には、事務職員・非常勤職員を含めて全職員が参加しています。利用者との何気ない会話も支援の一つと捉えて、いろいろな場面での利用者の姿を支援計画に反映するよう取り組んでいます。検討に参加する中で職員全員が利用者のヒストリーや家族の状況などを共有して利用者の全体的な姿を把握できるようにしています。支援計画が利用者本人にもわかるように平易な表現にしています。朝礼等で支援のポイントや支援方法、配慮事項を確認しながら支援計画に基づいて支援を行っています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-2	利用者が主体性を持って、充実した時間を過ごせる場になるような取り組みを行っている
タイトル②	給食は利用者の楽しみの一つ、利用者の意向を献立づくりに反映するよう努めています	
内容②	給食は利用者にとって楽しみの一つです。毎年、利用者の嗜好調査と希望メニューの調査を行い、献立づくりに反映するよう努めています。季節の行事に因んだ料理を提供して利用者に喜ばれています。料理のカロリー計算を行い、不足しがちな野菜類を摂取できるよう工夫しています。毎日、職員が検食して、利用者の食事の状況や料理等の評価を検食簿に記入し報告しています。毎月、給食連絡会を開いて、委託事業者と献立をはじめ給食全般について意見交換を行っていますが、連絡会には家族にも参加して試食してもらい、意見を聞いています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	様々な事情を抱えている人がすぐ利用できるように多様な作業を用意しています
	内容	多様な作業を用意していて、その数は20を超えます。様々な事情を抱えている人がすぐ利用できるようにしておきたいとの思いの表われです。また、利用者が自分の得意を活かして作業を行い、自分の得意なことを自覚し、それを人に認められて嬉しいと思う気持ちを大切にしています。作業環境に配慮して、1階の大きな作業室は可動式の棚で区切って、それぞれの作業に集中できるようにしています。2階には少人数の作業室を設けて、利用者の特性に合わせて作業ができるよう配慮しています。利用者が気持ちよく作業できる環境づくりに取り組んでいます。
2	タイトル	生活場面と日中活動の場面を生活として一体化して捉え、生活の場で起きるさまざまな困難に対しても迅速に対応するよう取り組んでいます
	内容	通所型事業所には、利用者を一定の時間、継続して見守ることができるというメリットがあり、障害のある人たちが地域で生活していく上で、キーの役割を担っていると考えています。利用者の自宅やグループホームでの生活場面と作業所での日中活動の場面を切り離さず、生活として一体化して捉え、生活の場で起きるさまざまな困難に対しても迅速に対応するよう取り組んでいます。そのため、家族やグループホームとは情報を共有し、協力・連携できる体制を整えるよう努めています。
3	タイトル	障害のある利用者にもわかりやすく情報を提供するよう工夫しています
	内容	知的障害や自閉症スペクトラムの利用者にもわかりやすく情報を提供するよう工夫しています。新型コロナウイルス感染症については、利用者に必要な情報を、写真や絵を使い、わかりやすい文章で解説したリーフレットを作成し(カラーコピー)、利用者説明会を開催しています。このリーフレットは大変好評で、他の事業所でも利用されています。今年度は、通所経路にある危険な場所を映像にして、利用者へ伝え注意を喚起しています。これまでも利用者向けに「支援計画書」を作成して、作業所の年間の活動をわかりやすく伝えるための努力を重ねています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	作業所を取り巻く環境を踏まえながら、できるだけ早期に今後の方向性を明らかにしていくことが望まれます
	内容	中長期計画の策定に向けて、プロジェクトチームを設置して検討を始めています。課題の一つは、利用者の高齢化に対応するために生活介護事業について検討すること、二つ目に、これまでのグループホーム、相談支援事業、就労支援事業の経験を踏まえながら新しい視点で今後の地域支援事業のあり方を考えるというものです。作業所を取り巻く環境を踏まえながら、できるだけ早期に今後の方向性を明らかにしていくことが望まれます。
2	タイトル	作業所周辺の地域で障害者と施設に対する理解を深めていくことが大事な課題となっており、引き続き、その努力をすることが望まれます
	内容	青梅福祉作業所は2021年に開設50周年を迎えました。歴史ある事業所として、障害者福祉の分野では関係機関との連携をはじめ、大きな役割を果たしています。作業所の所在する地域でも、災害時の一時的避難所としての役割を担っています。コロナ禍で中断していますが、「ふれあいフェスティバル」を開催して地域の人々との交流にも取り組んでいます。一方、通所途中で利用者が住民等に迷惑をかけてしまうことがあり、作業所周辺の地域で障害者と施設に対する理解を深めていくことが大事な課題です。引き続き、その努力をすることが望まれます。
3	タイトル	職員の意識の状況などについて丁寧に現状を分析・評価することが必要と思われれます
	内容	今回、分析シートには職員の状況について、いくつかコメントがありました。そのコメントと職員の自己評価のカテゴリー5「職員と組織の能力向上」の結果を合わせて見ると、職員の意識の状況などについて丁寧に現状を分析・評価することが必要と思われれます。職員の意見や要求を積極的に引き出し、活力ある職場づくりに取り組むことが期待されます。